

くっつく教室アドバンス

(株)スリーボンド提供

スリーボンドは八王子にある、接着剤などの化学技術を誇る会社です。その化学技術に触れ、化学の進歩と産業の発展について勉強します



みんなで考え中



紫外線で固まる接着剤とロボット：多くの工場ではロボットが自動で接着剤を塗っています。今回は紫外線を当てると一瞬でかたまる接着剤を缶バッジに塗って、絵を描いてもらい、それを記念品としてもらいました。この接着剤とロボットは色々な工場で、すばやく接着するために大活躍しています



超親水コーティング：水となじみます。その現象を観察し、いつもと違う水の動きを見て、水を滑らせる実験をしました。自動車のミラーの曇り止めなどに使われます



超撥水コーティング：水をはじきます。その現象を観察します。実際に水が玉になって転がる実験をしました。自動車のボディークートに使われています



接着剤に歴史があることや、乾いてくっつくタイプと化学反応でくっつくタイプなど様々な種類があることを聞き、それらがどんなところに使われているか紙芝居を見て勉強しました



ボルト用接着剤：ボルト（ねじ）のゆるみ止めのための接着剤です。その強さを感じ取りました。日常生活で使っているものの中に多く使われています



スリーボンドの会社の始まりと、その基になる考えを紙芝居で見せてもらいました



あっ！ すごい！！



どうなるんだろう？



見て見て！



八王子「宇宙の学校」 第4日

(最終日)

最終日の4日目は、各会場で「静電気で遊ぼう」が開かれ、終わりに閉校式が行われました。

11月5日の都立八王子北高会場では、学生ボランティアの創価大生7名、八王子北高の生徒2名が中心となり、準備に奔走。閉校式では、安間教育長が欠席のため、八王子市生涯学習スポーツ部の小柳悟部長が挨拶を代読しました。都立八王子北高・高橋校長、陶鎔小・飯澤校長、松枝小・徳丸校長からそれぞれご挨拶をいただきました。

工科大学会場は11月6日。工科大の学生数十人が中心となって、「静電気で遊ぼう」に必要な工作

材料の確認やセット作業に従事しました。KU-MAの市川哲彦先生と松澤俊志先生が、それぞれ1教室を分担、応援してくださいました。閉校式の挨拶は安間教育長にお願いしました。

11月13日の教育センター会場はこども科学館の叶館長の挨拶で始まり、KU-MA山下先生のレクチャーで静電気について学習。閉会式の挨拶は小柳部長。宇宙の学校後援会杉山会長より、未来に伸びゆく子どもたちへのコメントもありました。

閉校式では終了証の授与が行われ、当日一番乗りの親子が代表して受け取りました。



都立八王子北高会場の様子

安間英潮教育長



小柳悟生涯学習
スポーツ部長



市川哲彦先生



松澤俊志先生



工科大学会場の様子



教育センター会場の様子



山下法昭先生



叶清こども科学館館長

静電気で遊ぼう

静電気の発生する原因について、実験素材（プラスチック）をこすって学習。あらゆる産業分野での静電気の利用も教わります



集中しています



子どもも大人も真剣



どうすればいいか考え中



まなざしに未来が宿ります



こうすれば回るんだね

家庭学習成果 発表会



都立八王子北高会場



工科大学会場



教育センター会場



修了証の授与
都立八王子北高会場



修了証の授与
工科大学会場



修了証の授与
教育センター会場

閉校式



サポートスタッフ

多くのボランティアに
支えられて

八王子「宇宙の学校」の運営に重要な役割を担うのが、スクーリングを補助するボランティアの存在です。よりきめ細かいサポートを行うため、今年度は八王子市と包括連携協定を締結している市内大学等から、新たに創価大学と東京薬科大学の学生の皆さんがボランティアとして参加しました。

また、東京工科大学では、昨年度の従事者（2年生）が、同学の1年生ボランティアを指導する「テクニカルスタッフ」として継続参加するなど、サポート体制を構築して実施しました。



ボランティアスタッフ集合写真
(平成28年11月13日教育センター会場)
創価大学・東京薬科大学・東京八王子
プロバスクラブの皆さんと山下先生



東京工科大学 応用生物学部2年
テクニカルスタッフの皆さん
(後列左から：由井怜弥さん 三沢彩美さん
井口直人さん 向谷地 力さん 田辺達也さん
前列左から：多田佳鈴さん 下田百合香さん
傳田百香さん)

* ボランティア参加者のコメント *

東京工科大学 応用生物学部2年 下田百合香さん

「本学では毎年1年生が参加していますが、私達2年生は前年度の経験を活かし、1年生を指導する立場として加わりました。実施する上では、改善点等を直ちに現場に反映するために自分達で考え、現場で瞬時に指示を出す大変さや情報伝達の重要性を学びました。」

東京薬科大学 生命科学部2年
ボランティアクラブ アイボリー 所属

「新しい発見を純粋に楽しむ親子を見て、私自身も楽しめました。こどもたちには、これからもたくさんの方に挑戦してほしいです。」 (佐藤志保さん)

「参加する子どもたちは好奇心に満ち溢れていて、サポートする側もとても楽しく時間を過ごすことができ、良い経験となりました。」 (鶴見莉子さん)



佐藤志保さん



鶴見莉子さん



菊谷真由さん

創価大学 理工学部1年 古閑伸一さん



「上手なコミュニケーションを取れなかったことが反省点。将来、教師になりたいので、この点を意識して次回も参加したいです。」 (全4回参加)

創価大学 理工学部1年 藤井和美さん



「親子のふれあいの温かさと、科学の面白さを発見して探求しようとする志に年齢は関係ないことを感じました。」

(全4回参加)